

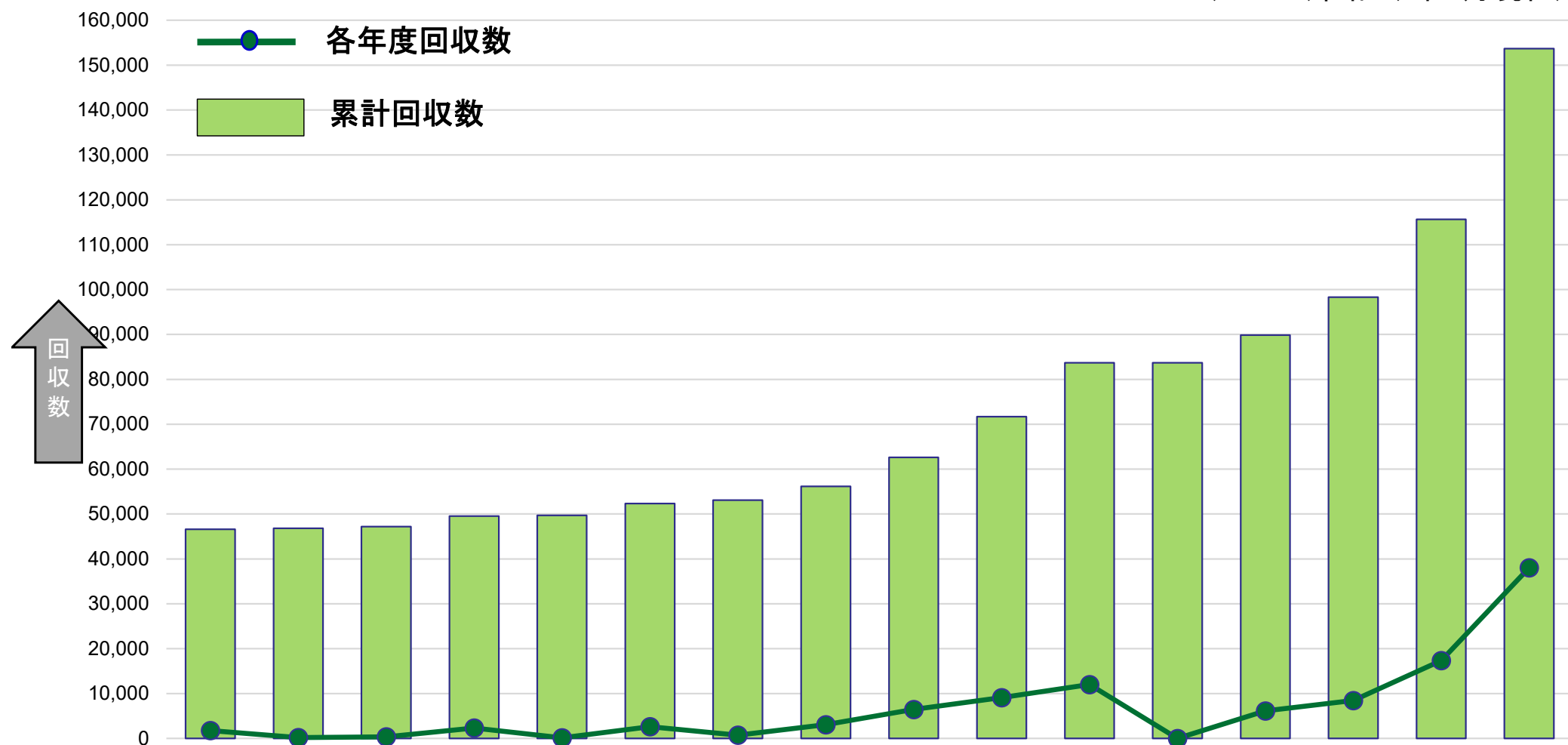
3. 各地発掘・回収事業

別添3

(1) 発掘・回収数の実績推移

【単位：発】

(2025(令和7)年3月現在)



年度	~2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
各年度 回収数	1,787 (1,760)	222 (222)	380 (380)	2,340 (2,253)	153 (135)	2,640 (2,640)	754 (754)	3,071 (302)	6,468 (1,333)	9,089 (1,540)	12,001 (3,761)	0 (0)	6,131 (0)	8,457 (1,019)	17,348 (3,447)	38,030 (17,405)
累計 回収数	46,587 (45,713)	46,809 (45,935)	47,189 (46,315)	49,529 (48,568)	49,682 (48,703)	52,322 (51,343)	53,076 (52,097)	56,147 (52,372)	62,615 (53,705)	71,704 (55,245)	83,705 (59,006)	83,705 (59,006)	89,836 (59,006)	98,293 (60,025)	115,641 (63,472)	153,671 (80,877)

※回収数は化学兵器禁止機関（OPCW）申告数

（注）数字はハルバ嶺分を含む全体数で、カッコ内の数値は、ハルバ嶺以外の地域における回収数（内数） 1

(2) 牡丹江市発掘・回収事業

1 事業の経緯

2022 (R4) 年度 中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認

2023 (R5) 年度 7月～9月、内閣府にて発掘・回収事業を開始

2024 (R6) 年度 4月～9月、計3期の発掘・回収事業を実施

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器と確認された砲弾等20,057発を発掘・回収した。

2 事業の特徴

1区画(20m×20m)において1,000発を超える砲弾等が発掘される等、他の事業に比して非常に多くの砲弾の発掘が予想される。

3 今後の予定等

2025 (R7) 年度は、6月～9月、計2期の発掘・回収事業を実施予定。

廃棄計画を踏まえ、2025年中に発掘・回収を完了することを目指して最善の努力を払う。



(3) 伊春市発掘・回収事業

1 事業の経緯

2022(R4) 年度 中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認

2023(R5) 年度 10月～11月、内閣府にて発掘・回収事業を開始

2024(R6) 年度 10月～12月、発掘・回収事業を実施

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器と確認された砲弾等182発を発掘・回収した。

2 事業の特徴

ダム底に溜まった鉱滓の下(地表から約8m)にA CWが存在するため、当初はパワーショベル等による鉱滓の除去が必要であり、他の事業に比して土木重機の所要が多い事業

3 今後の予定等

2025(R7) 年度は、4月～5月、10月～12月、計2期の発掘・回収事業を実施予定。
廃棄計画を踏まえ、2025年中に発掘・回収を完了することを目指して最善の努力を払う。



(4) 敦化市発掘・回収事業

1 事業の経緯

2023 (R5) 年度 中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認

2024 (R6) 年度 10月、内閣府にて発掘・回収事業を開始

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器と確認された砲弾等6発を発掘・回収した。

2 事業の特徴

当初、発掘予定地域になり得るのは約3.5haの広さで見積もられたが、外務省の現地調査により約25haの広大な面積が発掘予定地域として指定、またその一部においては、住民が生活をする集落の一画が含まれる。

3 今後の予定等

2025 (R7) 年度は、4月～5月、10月～11月、計2期の発掘・回収事業を実施予定。

廃棄計画を踏まえ、2025年中に発掘・回収を完了することを目指して最善の努力を払う。



(5) 松花江（佳木斯（ジャムス）地区）発掘・回収事業

1 事業の経緯

2006 (H18) 年度 中国側からの通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認
2007 (H19) ～2014 (H26) 年度 内閣府にて各種調査（磁気探査、河川深浅測量、地質調査等）を実施
2015 (H27) ～2019 (R1) 年度 試掘事業を実施し、締切工法、潜水工法による発掘及び探査技術等を検証
2019 (R1) 年度 2018 (H30) 年に柳樹島近傍で一時露出した砲弾の緊急回収
2020 (R2) ～2021 (R3) 年度 潜水工法の改善・改良及び探査の効率化のための国内試験を実施
2022 (R4) 年度 本格的発掘・回収事業を開始（潜水工法）
2023 (R5) ～2024 (R6) 年度 潜水工法による発掘・回収事業を実施
これまでの試掘及び発掘・回収事業で、遺棄化学兵器の可能性のある砲弾等93発を発掘回収した。

2 事業の特徴

松花江は、アムール川最大の支流で、長白山より発し、南から北に流れる河川。長さは1,927km、流域面積は212,000km²、事業対象区域における最大河川幅は700m。水深は深く、流速は早い上、河川の透視度は数cmであるため、発掘作業には困難を伴い、技術的に解決すべき課題が多い。

冬季の凍結、夏季の増水のため、現在の装備で事業が実施できる期間は4月下旬から8月上旬。

3 進捗状況・今後の予定等

- 2025 (R7) 年度は、潜水工法を継続するとともに締切工法による発掘・回収を実施。
- 作業期間延長のため、2024 (R6) 年度から新型の作業台船造船に着手。2027 (R9) 年度から運用開始予定



潜水工法(潜水土による発掘)



締切工法(ドライアップ後の河川締切りの状況)

2025年度計画	2025(令和7)年度					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
発掘・回収事業		潜水工法			締切工法	

(6) 尚志市発掘・回収事業

1 事業の経緯

2013 (H25) 年度

中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認。内閣府にて緊急発掘・回収事業を実施

2014 (H26) 年度

埋没範囲の状況調査のため、外務省が改めて現地調査を実施

2015 (H27) ～2018 (H30) 年度 内閣府にて発掘・回収事業を実施

2022 (R4) 年度

発掘・回収事業再開

2023 (R5) 年度

発掘・回収事業実施

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器の可能性のある砲弾等約830発を発掘回収した。

2 事業の特徴

現地調査の結果、約423haの広範囲な地域の各所に砲弾埋没に係る情報があり。

3 進捗状況・今後の予定等

2025 (R7) 年度は、発掘・回収作業の予定なし。



(7) 琿春市発掘・回収事業

1 事業の経緯

2008 (H20) 年度	中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、 遺棄化学兵器の存在を確認
2012 (H24) 年度	内閣府にて発掘・回収事業を開始
2013 (H25) 年度	アクセス道路完成
2013 (H25) ～2017 (H29) 年度	引き続き、内閣府にて発掘・回収事業を実施
2022 (R4) 年度	発掘・回収事業再開
2023 (R5) 年度	発掘・回収事業実施

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器の可能性のある砲弾等約930発を発掘回収した。

2 事業の特徴

現地調査の結果、約78haの広範囲な地域を指定。夏季の降雨と冬季の降雪は作業期間・実施に影響を及ぼす。

3 進捗状況・今後の予定等

2025 (R7) 年度は、発掘・回収作業の予定なし。



(8) 広州市発掘・回収事業

1 事業の経緯

2024 (R6) 年度 中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認。

2 事業の特徴

数多くの直方体の穴に多数かつ多様な砲弾が遺棄してあり、その中に旧日本軍の遺棄化学兵器も含まれている。

3 今後の予定等

2026 (R8) 年 1 月～ 2 月、内閣府により発掘・回収事業を開始予定。

